



INGING MOTORSPORT



INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [http://www.inging.co.jp]

INGING NEWS PAPER 2015 VOL.06

Race Report 2015年9月13日 オートポリス
Round.5 AUTOPOLIS 9/13 Final

石浦2位 表彰台獲得!!



国内も8位入賞で
2台揃ってポイント
GET!
Congratulations!



SUPER FORMULA SUGO 10/17-18

Support by cyber net

INGING NEWS PAPER VOL.06

INGING NEWS PAPER VOL.06 [インギング ニュースペーパー]

発行：株式会社サイバーネット 西日本事業部
〒566-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1-1-2-5 難波室町ビル5F

2台揃ってチャンピオンシップポイントを獲得!!

Race Report 決勝 2015年9月13日 オートポリス
Round.5 AUTOPOLIS 9/13 Final
 天候:晴れ | コース状況:ドライ 決勝 [54 Laps = 252.236 km]

“オーバーテイクポイントの少ないオートポリス。レース序盤の順位変動がなく周回数が進んでいった。”

決勝日の朝は強い日差しがさしたオートポリス。ただ高地らしく ひんやりとした風が気持ちの良い、絶好の観戦日和といったコンディションで決勝レースがスタートした。ポールポジションからスタートした石浦はわずかにポールポジション。その間に、フロントローと2列目に並んだ中嶋一貴、小林可夢偉の先行を許し、3番手のポジションでオープニングラップを終えた。4番手以降が1分32秒のタイムを並べていくのに対し、この3台は31秒のタイムで後続を離しながらトップグループを形成。その後4番手を走っていたアンドレ・ロテラーがジャンプスタートの裁定を受けてペナルティにより後退したため、さらに後続との差は広がり、3台でのトップ争いが激化した。一方の国本は7番グリッドから抜群の反応を飛ばしてスタートしたが、前方のマシンをかすめる間にタービにタイヤを奪ってしまいオープニングラップを8番手で終えた。オーバーテイクポイントの少ないオートポリスで、レース序盤はほとんど順位変動

がなく周回数が進んでいった。しかし、目まぐるしく順位が入れ替わるレースよりも、ラップタイムのコンマ数秒差を重ねていくことで前のマシンとの差を詰めていく、ドライバーにとってはより高い集中力を要求されるようなレースになっていた。今回のレース距離は250kmのため、レース中の給油作業が必要になる。それぞれのドライバーが、どのタイミングでピット作業に入るのかに注目が集まった。下位のドライバーが次々にピット作業に向かっていく中、石浦とトップを走る中嶋だけは終盤までそのタイミングを計る。レースが動いたのは45周を終えたところ。2台が同時にピットへと滑り込んだ。ここまでのマシンのバランスを見てきた石浦は、フロントタイヤ2本交換を選択。対する中嶋はタイヤ無交換作戦だったが、2台の給油時間はほぼ同じで、同時にピットを後にした。よりピットロード出口に近い位置にピットを構えた中嶋が先行し、石浦はその後ろでコースに復帰。全車がピット作業を終えた47周終了時点で、中嶋と石浦との差は3.4秒を示していた。しかし、ここから石浦の快走撃が始まり、1周につき0.5秒近く中嶋との差を詰めていく。49周目には2.5秒、50周目には1.5秒に縮まり、石浦の目にも中嶋の姿が大きく映るようになっていった。残り数周はオーバーテイクシステムの応酬が続き、その差は0.7秒まで縮まったが、フ

ロントタイヤのみを交換した石浦はマシンバランスに苦しみ、空力を乱されるほどの接近戦は難しい状態だった。スタートのホールディングが響いた2位表彰台しかし、シリーズランキングで2位につけていたジョアオ・バロ・チオリベラが5位にとどまったことで、ランキングトップは保持。次戦SUGOにもランキング首位を表すリーダーズレッドを着けて臨めることとなった。

オープニングラップを8番手で終えた国本は、序盤は前のマシンに迫る勢いを見せると、最後までペースを乱さずに走り切り8位フィニッシュ。シーズン前半の悪い流れを断ち切るようにポイント獲得を果たした。



POINT GET! CONGRATULATIONS!



立川 祐路
 Y. TACHIKAWA
 Team director

38 石浦 宏明
 H. ISHIURA
 予選1位 | 決勝2位

39 国本 雄資
 Y. KUNIMOTO
 予選7位 | 決勝8位

石浦の2位という結果は、ちょっと残念です。ただ、2位で残念と思えるのはチームの戦術が良く、実力が上がっている証拠です。チャンピオンシップを奪取すればいい結果ではないと思っています。最後に逆転を狙って、戦略面でも他があまり採用しないフロントタイヤ2本交換という作戦を試したり、石浦も最後まで頑張り抜きました。残念ですが、よく戦ったと思います。クルマの仕上がりは良かったですが、原因はスタートだけ、それが上手いのは前でした。ここで行っても悪いというのは、クルマが仕上がっている証拠です。この先のSUGO、鈴鹿に向けても自信を持って、次は勝ちに行きたいですね。国本も、予選の位置が位置だけでなく良い戦いになりましたが、そのなかでしっかりと走り切りました。調子自体は今までよりいい方向に向かっていると感じました。もう少しクルマを無難めがいいですね。フォーミュラはとてモシビアな戦いで、その少しづつ大きく強くなります。チームタイトルを考え、もう少し頑張って、2台で上位を狙えるようにしたいです。

予選から今朝のグリッド一歩まで、いい流れで来ていました。唯一、スタートだけがあまり良くなかった。反応は良かったのですが少しポールポジションと違って、その間に両側からさされる形で前に出られてしまいました。ただ、万が一スタート前に出られてもいろいろと作戦面で頑張ろうと、スタート前にチームと話し合っていました。フロントタイヤを2本交換するというのは自分でも決めましたが、実際に走ってみると予想以上にオーバーステアが出て、良くなかったのですが走るうちにそのバランスにも慣れてきてで上げることができました。最後は少しでもブレッサーをかけたらとオーバーテイクシステムも使いましたが、相手もミスはしませんでした。最後まであきらめずに走れたのは良かったと感じています。今後のレースワークに入る前は、これまで結果を出してきたサーキットと今までの予選の違うオートポリスで、自分たちのクルマとの相性はどうかと心配した部分もあったのですが、週末を過ごしていい状態でのスタートだと思います。SUGOも期待できるだろうという自信を持っています。

スタート自体は良かったのですが、前のマシンに引かれてしまい、よけるためにタービにタイヤを奪ってしまいました。序盤は前のマシンについて行けるくらいは速さがあったのですが、(周回数が進むにつれて)クルマのバランスが変わってくると徐々に離されてしまって、後半のペースがあまり良くありませんでした。最後の最後にピット作業をしたマシンにも抜かれてしまったのも、そのペースの悪さが原因だったと思います。ただ、これまでと違って、ちゃんとレースができてという印象を持った週末になりました。久々にQ3にも進めましたし、レースも最後までちゃんと走り切りました。次戦はもう1ステップ高レベルで戦っているように準備をしたいと思っています。